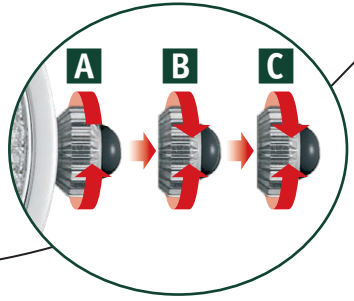
Instructions for use
Mode d'emploi

Calendar, Moon Phase with Power Reserve

Calibre 3123/3908
Selfwinding

AUDEMARS PIGUET
Le maître de l'horlogerie depuis 1875

1
2
3
4
5
6


A
B
C

日本語

使用説明書の目次はインタラクティブになっています（反対側ページ参照）。

読みたい項目のタイトルもしくはサブタイトルをクリックしてください。

目次に戻りたい場合は縦に配された白いインデックス «日本語» をクリックしてください。

1. イントロダクション 151ページ
- オーデマ ピゲのマニュファクチュール

2. 時計について 154ページ
- 新型自動巻きキャリバー 3123/3908
- ムーブメントの特徴

3. この時計について 160ページ
- ムーブメント
- ムーブメントの仕様
- 特徴
- 時計の表示と機能

4. 基本的な機能 164ページ
- 時刻合わせ
- 時刻合わせ時のテンプの停止
- ムーブメントの巻き上げ
- 日付の調整
- 月相
- すばやくできる月相の修正
- パワーリザーブ表示の読み方

5. 備考 169ページ

オーデマ ピゲ マニュファクチュール

時計製造技術の発祥の地、ジュウ渓谷

ジュネーブの約 50 km 北、スイス・ジュラ山脈の中に、今日までその自然の魅力を保っている地域、ジュウ渓谷があります。この山岳地帯は気候が厳しく、土壌も痩せていたため、この地に根を下ろした人々は18世紀の中頃に、農業以外の収入の道を探すことを考えました。コンビェと呼ばれたこの土地の人々は、手先の器用さと新しいものを創造する力、また不屈の精神を活かして、時計製造業へと発展していくことになりました。

こうして作られたムーブメントは質が高く、ジュネーブの企業に大変な好評をもって迎えられ、完全な時計に仕上げられたのでした。

1740年以降、ジュウ渓谷のみで時計製造業は自立した産業として発展することができるようになりました。このとき以来、この地域は、ある年代記の1881年の項に記されているように、「急速に発展を遂げた桃源郷」へと変貌したのです。

偉大なる冒険に挑んだ2つの名前

1875 年、複雑時計の製作に情熱を傾ける 2 人の若き天才時計職人、ジュール＝ルイ・オーデマとエドワール＝オーギュスト・ピゲが、高級時計産業が盛んな地、ジュウ渓谷で 2 つの才能を集結させ、複雑機構を搭載した時計を開発・製作しようと決意しました。2 人の決意、想像力、そして規律の正しさで、ただちに成功を収めました。 1885年ごろ2人はジュネーヴに支店を構え、1889年のパリ万国博覧会の際には様々な超複雑懐中時計を発表して拡大を続けます。オーデマ ピゲのマニュファクチュールは年々と発展を続け、例えば 1892 年には初めてのミニッツリピーター機能付きの腕時計、1915年にはそれまで実現されたことのない5分単位ミニッツリピーター機能を備えた最小ムーブメントを製作するなどして、高級時計産業の歴史を彩ってきました。

1918年からは、創設者の息子たちが事業を受け継いでいます。男性用、女性用の腕時計の製作に卓越した技術を発揮し、極薄の洗練された新しいムーブメントを作り出しています。1929年のウォール・ストリート株価大暴落によって厳しい経営を強いられるものの、粘り強さと信念を持ち続けることで、まずスケルトンと呼ばれる時計の製作を再び軌道に乗せ、その後クロノグラフ付き時計の製造に乗り出しました。しかし、この新しい勢いも、第二次世界大戦によって突然中断を余儀なくされてしまいます。戦後は再編成をし、マニュファクチュールは、「伝統と革新」を追及しつつ、ハイエンドウオッチの製作に注力。そして特に、クリエイティブの斬新さという方針により、戦略は実を結んだのです。

国際的な成功を収めたオーデマ ピゲは、1972年にステンレススチールを用いた世界初のラグジュアリースポーツウオッチとして発表され、発売と同時に大きな成功を収めたロイヤル オークの製作をはじめ、1986年に発表された世界初の自動巻きの極薄トゥールビヨン腕時計などの製作を続けてきました。以来、マニュファクチュールの創造のひらめきは衰えることなく、比類ないムーブメントを備えた独自の美しさを持つ時計を世に送り続けています。こうして80年代末には複雑時計のテイストをコンテンポラリーなものに一新し、1999年には見事なコレクション「トラディションオブエクセレンス」を発表します。伝統に根付いた大胆なスピリットを実現しながら、未来をも約束しています。

自動巻きキャリバー3123/3908

オーデマピゲ のキャリバー3123/3908は、この時計はセンターセコンド、日付表示、月相表示、自動巻ムーブメントを備えており、機能性、時計としての性能、そして最高レベルのデザインを完璧に融合させています。

伝統と革新

マニュファクチュールであるオーデマ ピゲ社は、創業以来つねに自主性を守り抜こうと努力してきました。だからこそオーデマ ピゲは自社製作にこだわり、オーデマ ピゲ特製キャリバーを開発したのです。APのシグナチャーがはいっています。他と同様に（バランスよく並んだブリッジ、部品の装飾）一目で認識でき、テンプの縦断ブリッジをアピールするエレガントでバランスのとれたデザインです。オーデマピゲの紋章の装飾が施された22Kゴールド製ローターが効果的な巻き上げを保証します。

最も洗練された時計製造技術による、この自動巻キャリバーは、サファイアガラスのケース バック越しに眺めることができます。この自動巻キャリバーは、精密な機構が持つ長所（堅牢性、信頼性、歩度の精度）に加えて、細部へのこだわりにおいても見事な仕上がりになっています。

自動巻きキャリバー

キャリバー3123/3908 は自動巻きです。手首の動きによって、時計が機能するのに必要なエネルギーが生じます。

このエネルギーは、22金製の回転錘に吸収され、歯車によってゼンマイに伝えられます。

ゼンマイは、軸に徐々に巻き上げられる事により、エネルギーを蓄え、その後、規則正しく時計のムーブメントに供給されます。

時計を填めた方の運動量や生活習慣の違いにより、数時間から数日の範囲でパワー・リザーブが上限に達します。

過大な負荷を防ぐ為に、ゼンマイが適当な時に巧妙なシステムにより香箱内を空転します。

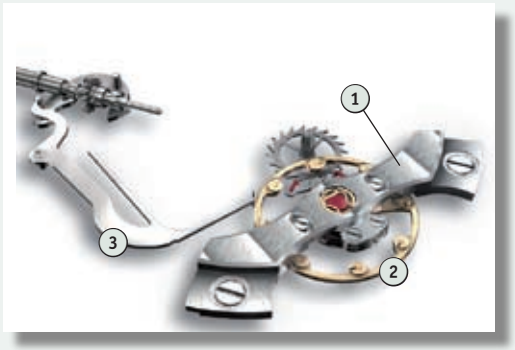
ムーブメントの特徴

調速機構

■掛け渡し型テンプ受け ①:
テンプの位置を正確に保ち、衝撃時の耐久性と高精度の歩度を保証します。

■8個のジャイロマックスピン付きテンプ ②:
ヒゲゼンマイの長さを変えずに時計の調整を可能にする8つのおもりを備えたジャイロマックステンプ。

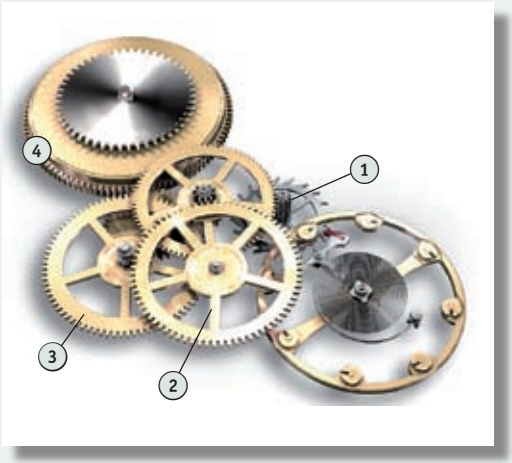
■時刻合わせ用の秒針停止レバー ③:
リューズを引き出すと秒停止レバーが自動的に作動します。これにより秒針を瞬時に止めることができ、正確な時刻合わせが可能になります。



輪列機構

オーデマ ピゲの厳しい品質管理のもとに製造された輪列機構は、以下の基準を満たしています。

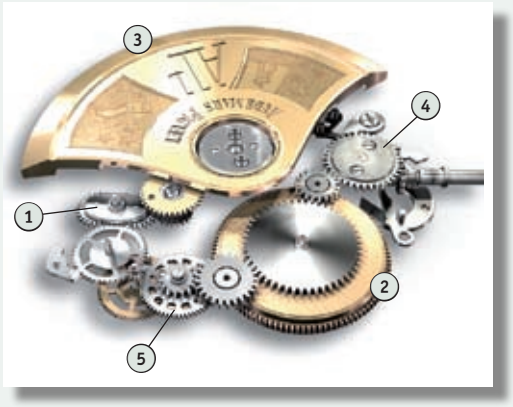
- カナは研磨済みです。①
- すべてのエッジ部分はバリ取りおよび角出し済みです。②
- ほぞとほぞ穴はバニシ仕上げ。
- 機能に影響のない歯車の表面はゴールド仕上げでサークル模様が施され、アームには面取り加工、エッジと表面にはダイヤモンドポリッシングが施されています。③
- 歯車の歯は構造面からも機能面からも完璧な歯の表の仕上がりを期すため、ゴールドプレート処理後にフライス加工が施されます。④



自動巻機構

このキャリバーは次の基準を満たしています。

- 最小限に抑えられた歯車とゼンマイへの摩擦 。
- スピーディーな巻き上げが双方向に可能 ①。
- 長時間（約55時間）のパワーリザーブを有するバレル ②。
- セラミック製ボールベアリング上にセットされた22Kゴールド製ローター ③。
- 自動巻上機構と連動した引き外しシステム付きのリューズ用大歯車（④と巻き上げ用歯車 ⑤により、手巻きで巻き上げを行なうことが可能。また、摩耗を最小限に抑制。



ムーブメント

キャリバー 3123/3908

ブリッジ側

ダイヤル側

ムーブメントの技術仕様

ムーブメントの厚さ: 5.68 mm

直径: 26.00 mm

振動数: 21,600 振動／時 (3 Hz)

石数: 45

パワーリザーブ (ミニマム): 約55時間

双方向回転自動巻

セラミック製ボールベアリング使用ローター、22カラットゴールド

変動慣性マスロット使用テンプ

平面スパイラル

ネジ付可動ピトン留め

部品数: 316

特徴

時刻調整中は、テンプが停止 (秒針の停止)

ダイヤモンド研磨仕上げのブリッジアングル

ブリッジ上に反転渦巻

腕時計の表示機能（図を参照）

1. 時針
2. 分針
3. 秒針
4. パワーリザーブ表示針
5. 日付表示針
6. 月相表示

この時計は、3段階式のリューズを備えています。

A 位置 手巻き

B 位置 クイック日付修正

C 時刻と月相を修正するためのリューズ位置

<注意>ロイヤル オーク モデルの場合は、リューズをゆるめて **A** 位置にします。その後、防水の為、リューズと押しボタンをしっかり締めて下さい。

時刻合わせ

リューズを位置 **C** に引き出します（ねじ込み式リューズ　モデルの場合は、引き出す前にリューズをゆるめます）。リューズを回し、針を進めるか送らせて正しい時刻に合わせます。時刻修正は、まず合わせたい時刻より5分ほど針を先に進ませてから、正確な時刻に合わせてください。

注意: 日付の変更により午前12時と午後12時を間違えないようにしてください。

時刻合わせ時のテンプの停止

リューズを引き出すと秒針と同時にテンプも自動的に停止します。これにより秒単位の正確な時刻合わせが可能です。

ムーブメントの巻き上げ

ねじ込み式リューズのモデルの場合、必ずリューズを緩めてからご使用ください。

時計が停止した場合は、リューズを **A** 位置で時計回りに30回転させることにより、完全に巻き上げることができます。その後は手首の動きにより、自動巻機構が時計の正常な作動を持続させます。

注意: 時計を腕に付けていない時、自動巻システムは機能せず、時計は2日ほどで止まります。

日付の調整

誤作動を防ぐため、日付メカニズムが作動していない午前1時から遅くとも午後8時までの間に操作を行うことをお勧めいたします。

日付表示が正しくない場合は、リューズを位置 **B**（日付調整位置）に引き出します。それから、リューズを時計回りまたは反時計回りに回して、正しい日付に合わせます。

操作後はリューズを位置 **A** に押し戻します（ねじ込み式リューズモデルの場合は、押し戻してからネジを締めます）。

月相

新月から次の新月までの期間は29日、12時間、44分、2.8秒です。

注: 別表に、様々な位相の日付が記してあります。

すばやくできる月相の修正

月相表示が正しくない場合は、リューズを位置 **C**（月相調整と時刻調整位置）に引き出します。それから、7.30時と14時の位置の間で針を時計回りまたは反時計回りに回して、正しい月相が表示されるように合わせます。

操作後はリューズを位置 **A** に押し戻します（ねじ込み式リューズモデルの場合は、押し戻してからネジを締めます）。

月相の修正方法:

a) 満月の日に、月のイラストを月相表示窓の中央に合わせます。

b) 前回の満月の日付を決定します。7.30時と14時の位置の間で針を時計回りまたは反時計回りに回し、最後の満月の日付と今日の日付をそれぞれ別々に合わせます。

パワーリザーブ表示の読み方

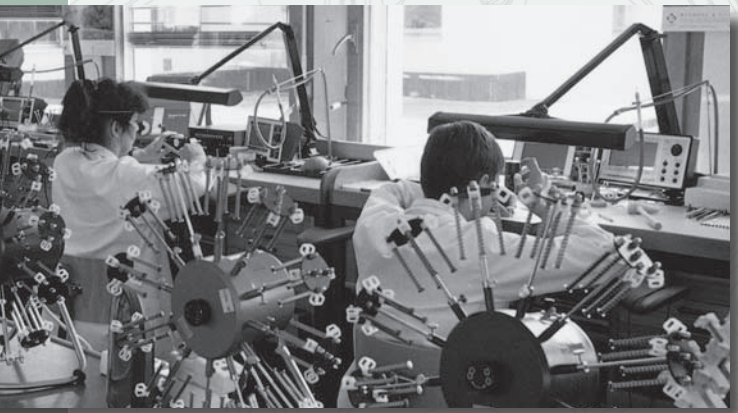
パワーリザーブの表示針は、その時々のゼンマイの状態を表示いたします。

ムーブメントのトルクは、パワーリザーブの針が**図1**にある緑のゾーンにあるとき、ゼンマイの力は最も安定しております。

パワーリザーブの針が**図2**にある赤のゾーンにある場合、ゼンマイの力はムーブメントの機能を保証するのに十分な力を出すことができず、時計はすぐに止まってしまいます。

図1

図2



保証とお手入れ

時計の保証、および推奨するお手入れ方法に関する全ての詳細な情報は、証明書および付属の保証書に記されています。